



おもな吸入器の特徴

Table with 4 columns: 吸入器 (Inhaler), 特徴 (Features), 注意点 (Precautions). Rows include エアゾールタイプ (pMDI), エアゾールタイプ+スパーサー, ドライパウダータイプ (DPI), and ネブライザー.

吸入器ごとの正しい吸入方法(手技)を身につける

ぜん息やCOPDといった気道の病気に対して大きな効果を発揮する吸入薬ですが、さまざまな種類が出ており、個人に合った適切な治療

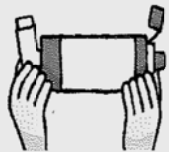
薬の選択が可能になっています。その反面、それぞれの吸入器ごとの吸入動作や手順が少しずつ異なるため、操作に戸惑う人も少なくありません。

せんが、きちんとした効果を得るためには、使用する吸入器に応じた正しい手技を身につける必要があります。現在、エアゾールタイプ(pMDI) Ⅱ加工式定量噴霧吸入、ドライパウダータイプ(DPI)、ネブライ

ザーの3つに大きく分けています。操作が可能な年齢では、エアゾールとドライパウダーが主力となります。また、エアゾールでは上手に使用できない場合に、スパーサー(吸入補助具)を使用することで吸入が可能となります。

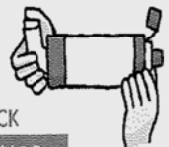
エアゾール+スパーサー (pMDI)

① 吸入器をよく振ってからキャップをはずし(※1)、イラストのようにスパーサーと吸入器の向きを合わせてセットする。



- CHECK
■吸入器を逆さにセットしない。
■スパーサーをごすらない。(静電気を起こさない)

② ポンペの底を1回強く押し、薬を噴射する。



- CHECK
■1回1噴射のみ。

マウスピースタイプ

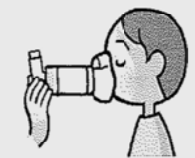
③ マウスピースをくわえ、1度にゆっくりと息を吸い込む。
④ 吸入口から口を離して息を止め、ゆっくりと息を吐く。



- CHECK
■薬剤を噴射したら、すみやかに吸入する。
■マウスピースをくわえるとき、口の左右にすき間ができないようにする。
■薬を吸うときは姿勢をよくする。

マスクタイプ

③ 口にマスクを当て、ゆっくりと呼吸をするように薬を吸い込む。



- CHECK
■薬剤を噴射したら、すみやかに吸入する。
■マスクが顔に密着するようにする。
■泣いたり、嫌がったりしないよう工夫する。
■薬を吸うときは姿勢をよくする。

④ 5呼吸くらいでスパーサー内の薬を吸い込み、息を吐き出す。
⑤ 1回2吸入を指示されている場合は、②~④をもう一度繰り返す。

注意点

- 使用後は、定期的に吸入器をはずして水洗いをし、十分に乾燥させましょう。



\*1: キュパール、オルベスコなど融解型は振る必要なし

WEB 版すこやかライフでは、吸入の仕方の動画の一部をご覧いただくことができます。

9月11日(水) 二日目の行動

全国患者会が一斉に、税調の委員に要請しました

9月11日は10時、自動車重量税廃止を阻止するために国会議員会館内を、税制調査委員会のメンバーに向けて要請をしました。

全体で60名、東京患者会からは20名が参加しました。その後、自動車工業会(港区)へバスで移動、社前で「自動車重量税廃止反対」の決意を表明、代表5名が要請を伝えました。



豊島支部は二日目にも7名が参加! ありがとう

九州現地調査に 参加して

練馬支部 進藤涼三 ミナマタで学んだこと

8月24日、26日の水俣・有明の現地調査にはじめて参加した。

私は、今回の現地調査で、医療関係者や弁護団、患者団体の方々がこれまでのたまたかいで培った経験や教訓を展された運動論や方法論から「最後の1人まで救済」する決意をあらためて心にとめた。

天草市新和町大多尾地域は漁民と農民が混住する町で、「水俣病非該当地域」です。龍洞山から見る不知火海は、「線引き」の理屈なきを如実に物語っていた。

集会のお話してから、過去から現在までの漁業と暮らし、「水俣病」の関わりを知りました。特にそのあとの懇談も含め最も学ばされたのは、被害者(漁民・農民)は現在でも偏見や

差別、分断工作(補償者の団結を壊す)の中で生活しています。

その人たちに被害の当事者として納得し、立ち上がってもらうのは並大抵なことではない。そこに関わった医療関係者や弁護団、患者団体の労苦は筆舌に

門戸を少しづつこじ開けるような地道な活動の連続だったことが言葉の端々に現れていた。

大交流会は、天草市新和町大多尾漁協のせり場で行われ、地元の漁民や農民によって準備された。

「今日の交流会を通じて第2次訴訟の展望が見えてきた。」と語ったことが心重く響いた。また、裏方として黙々と動く若い弁護士の姿にも感動した。



水俣病認定患者の発生分布図

ところが、右図に示されている地域外でも多くの患者が発生し、認定を求めています。地図中心の不知火海を囲むように被害が広がっているのです。

公害(みなまた病)・有明海環境破壊(諫早湾潮受け堤防開門を求め漁民)について、九州現地調査に、練馬支部の進藤さんに患者会を代表して参加していただきました。

全国公害患者の会連合会 幹事会 がありました

9月22日(日)~23日(祝)に新宿の公害センターにて行われました。

全国患者幹事会は約2カ月に一度予定されています。今回は千葉・東京・川崎・名古屋・大阪・神戸・倉敷・北九州の患者会から参加がありました。二日間には、自動車重量税廃止反対・国による新たな救済制度創設等について、情勢報告や行動提起が討議されました。

全国の患者会も東京の医療費助成継続については、強い関心を持って注目しています。

12月には都の制度継続についての方向性が出されますので、「都庁前集会」「都知事宛てハガキの周知」にご協力をお願いします。